

日立総合病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究名称 (倫理審査番号)	アザシチジン治療（ビダーザ治療）を行った骨髄異形成症候群（MDS）と骨髄異形成に関連した異常を伴う急性骨髄性白血病（AML-MRC）の治療成績の解析，予後因子同定のための後方視的多施設共同研究（2019-91）
当院の研究責任者 (所属)	周山 拓也（血液・腫瘍内科 医長）
研究期間	2019年12月9日～2022年3月31日
本研究の目的・意義	骨髄異形成症候群（MDS）と骨髄異形成に関連した異常を伴う急性骨髄性白血病（AML-MRC）は高齢者に多い造血器腫瘍です。アザシチジンはMDSとAML-MRCの病状を改善し，進行を遅らせることが認められています。しかし患者さんによってアザシチジンの効果は様々であり，長期に寛解を得られることもあれば，治療抵抗性を示す場合もあります。当院でのMDSやAML-MRCに対するアザシチジンの治療成績を解析し，治療効果の評価，予後予測因子の同定を行うことで，治療法の改善に寄与することを研究目的とします。
研究方法	<ul style="list-style-type: none">●対象となる患者さん 当院で2011年8月から2019年12月1日までにアザシチジン治療（ビダーザ治療）を受けた患者さん●方法 過去の通常診療で得られた臨床情報，診療情報を収集し，各施設の臨床情報，診療情報はJAとりで総合医療センターに送られ，各項目の関連性を統計的手法を使って解析します。過去に採取された骨髄穿刺検体，骨髄生検検体のホルマリン固定包埋標本から得られる薄切標本（以下、「検体」と表記する）を筑波大学に送り，新たに検査（病理検査や遺伝子検査など）を行います（患者さんに費用は発生しません）。その際の遺伝子検査では骨髄異形成症候群，急性骨髄性白血病に関連する可能性のある多数の遺伝情報を調査します。本研究で使用する情報や検体は過去の通常診療で得られたもののみであるため，新たに身体的危険や不利益を被ることはありません。
試料/情報の他研究 機関への提供および 提供方法	患者さんの個人が特定されるような情報は一切公表されません。臨床情報や検体は，解析施設に送る前に匿名化し，対応表は各施設で保存します。検証可能性の観点から，臨床情報は2033年3月31日まで，検体から得られる標本，遺伝情報は期間を設けずに筑波大学で保存されます。
個人情報の取り扱い	また，個人が特定されない状態での臨床情報や検体から得られる情報はJAとりで総合医療センターや筑波大学附属病院に提供されます。

	カルテ情報や検体の利用を希望されない患者さんは、以下の問い合わせ先までご連絡ください。お申し出いただいても今後の診療等に影響はありません。ただし、すでに論文発表や学会発表で公表されたデータとなっている場合には撤回はできません。
本研究の資金源 (利益相反)	この研究は、特定の企業からの資金提供を受けておらず、特定の企業の利益を優先させて、あなたの治療方針を変えてしまったり、研究の公正さを損なったりすることはありません。
お問い合わせ先	担当者：周山 拓也（血液・腫瘍内科 医長） TEL：0294-23-1111
備考	